

韓国・知識財産処の「バイブコーディング型AI業務革新」調査

エグゼクティブサマリー

韓国の知識財産処（지식재산처, Ministry of Intellectual Property=MOIP、旧・特許庁）が2026年8月27日に実施した「バイブコーディング・ワークショップ」は、単なる幹部向け生成AI研修ではない。調査すると、韓国政府が2026年春以降に急速に進めている、「**現場の公務員自身がAIで小さな業務アプリを作り、組織内・省庁間で共有し、有用なものだけ正式システムへ昇格させる**」行政開発モデルを、知財行政に本格導入する動きであることが分かった。¹

特に重要なのは、知識財産処では研修より前に実物ができていることである。8月26日、同処は政府各省庁のAI政策プレスリリースを自動収集・要約・分析する「Gov.AX Insight」を発表し、これをIP-AX推進団が**バイブコーディングで、別途予算投入なしに自前開発した**と明記した。同時に、海外AI・知財ニュースを分析する「IP-AX Global News」、知財法令・立法予告・国会提出法案を横断検索し、所管部署の振り分けや検討意見案作成まで支援する「IP-AX Law Monitor」など、過去3カ月に職員が開発したAIエージェント群も公開している。したがって8月27日の幹部研修は、「**バイブコーディングを試してみる**」段階ではなく、**既に下から始まっていた職員主導開発を、局長級以上の経営層まで巻き込み、制度化・全庁展開するフェーズ**と見るべきである。²

さらに韓国政府全体では、7月3日に行政安全部が「AI政府実験室」を始め、8月12日時点でわずか約1カ月のうちに**405件の実験プロジェクト、公共GitLab登録者1,000人超、公開プロジェクト189件**まで拡大している。8月25日に閣議報告された「AI民主政府」戦略では、全公務員へのAI教育を義務化し、自前AI開発・現場適用ができる専門人材を**2万人**育成、2026年12月までに「On AI」を47中央省庁へ展開し、AI政府実験室と公共GitLabを全省庁・地方政府の共通基盤として使う方針まで打ち出した。知識財産処の8月27日の動きは、この国家レベルの流れとほぼ完全に同期している。³

今回の動きの本質は、「AIを導入する」ことより「**ソフトウェア開発権限を現場に分散する**」ことにある。従来の大型情報システム開発とは別に、審査官・政策担当者・課長・局長が自然言語で小規模アプリを作り、アプリストア／GitLabで再利用し、セキュリティ・品質審査を通ったものを本番業務へ昇格させる二段階モデルが形成されつつある。これは日本の特許庁やUSPTOが公表している、専門チームによるAI審査支援ツールの計画的開発とはかなり異なる方向性である。⁴

ただし、最大の注意点もある。ユーザー提供資料の研修概要では、実習の60分間を明確に「**外部AIを活用したバイブコーディング**」としている一方、本番業務の既存アプリについては「**内部AIと連携**」と記載している。つまり、少なくとも公開資料上は「外部AI＝試作」「内部AI＝実業務」という二層構造が示唆されるが、未公開特許情報を外部モデルへ送らない仕組み、利用モデル、コードレビュー、権限管理、ログ、脆弱性検査などの具体的アーキテクチャーはまだ公表されていない。ここが今後の成否を左右する最大の確認ポイントである。⁵

八月二十七日に実際に何をしたのか

知識財産処の公式資料によると、ワークショップは2026年8月27日14時30分から17時30分まで、大田市儒城区の国際知識財産研修院のコンピューター教室で実施する構成だった。対象は処長、局長級幹部、各局の担

当書記官等で**30人以内**。専門的なプログラミング教育ではなく、自然言語でAIに要求を伝えて実際の業務アプリを作ること自体を管理職に経験させる設計である。fileciteturn0file0 6

研修の中身は非常に具体的で、提供資料の2ページ目では次のような3時間の構成になっている。fileciteturn0file0

時間帯	内容	意味
14:30– 15:20	知識財産処のAI利用状況・今後の方向、パイプコーディング概念・デモ	「AIとは何か」ではなく、既存事例を管理職に認識させる
15:30– 16:30	外部AIを使ったパイプコーディング	参加者全員が自らアプリを作る
16:40– 17:30	開発経験共有、開発アプリのデモ	作って終わりではなく、組織内共有まで経験する

しかも開発対象は、単なるプロンプト作成ではない。資料には「**HTMLベースのアプリ開発→内部アプリストアへの登録推進**」と明記されている。つまり「ChatGPTのようなAIに質問する研修」ではなく、生成AIをソフトウェア開発環境として使い、成果物を庁内アプリとして再利用可能な形にするところまで想定している。fileciteturn0file0

同日夕方の韓国メディアの現地報道でも、ワークショップが実際に開催され、参加者が知識財産処のAI利用状況や審査官作成アプリの事例を確認した後、**外部AIを利用して業務用アプリを作成・実演したことが報じられている**。したがって、8月27日朝の発表だけの「予定」ではなく、少なくとも研修自体は実施されたと判断できる。 7

ここで特徴的なのは、対象を若手IT担当者ではなく**処長・局長級**にしている点である。知識財産処長キム・ヨンソン（김용선）は、AI転換の成否は新技術を入れることではなく「実際の業務でどれほど効果的に使えるか」で決まり、まず幹部自身がAIを理解・利用して各部署の変化を主導すると説明している。公式発表は同時に、既に職員側では特許文献の要約・比較、請求項分析、資料整理、反復作業自動化などのツールが作られているとしている。つまり、**ボトムアップで先行した職員の動きに、トップダウンの管理職コミットメントを接続する研修**である。 6

「アプリストア」と公募制度が重要

知識財産処は、職員が開発したツールを相互利用する**庁内AIアプリケーション・マーケット／アプリストア**を運営するとともに、AI業務ツール開発コンテストを開き、優秀事例を発掘・表彰としている。公式に使っている表現が「**開発―共有―拡散**」であり、単にAI利用率を上げる施策ではなく、ソフトウェア成果物を組織資産にする仕組みを作ろうとしている。 6

これは重要な違いである。個々の職員が生成AIでExcelマクロの代替物を作っても、個人PCに残れば組織生産性はほとんどスケールしない。そこで「作る→登録する→他部署が再利用する→良いものを表彰する」という流通機構まで一体化させている。後述する韓国政府全体の公共GitLabも、ほぼ同じ思想で設計されている。 8

背景には数年かけた知財AI化がある

今回だけを見ると、生成AIブームに乗って突然「パイプコーディング」を始めたように見える。しかし実際には、旧特許庁時代から続くAI行政基盤の上に、2026年になって「**職員自身がアプリを作る層**」が追加されたと見る方が正確である。 9

審査AIから始まった第一段階

旧韓国特許庁は2023年2月、「AI技術を活用した特許行政革新ロードマップ（2023～2027）」を策定した。背景として、過去10年間で産業財産権の出願件数が49.3%増えたのに対し、審査官の増員は19.7%にとどまり、検索対象となる先行技術も増大していると説明している。ロードマップでは、特許行政に特化したAI言語モデル、海外特許文献翻訳、AI先行技術検索、商標検索、方式審査自動化、AI審判・判決検索、チャットボット等を段階的に整備するとした。¹⁰

その後、LG AI研究院との共同開発が進み、2023年7月にAI分野の協力MOUを締結、同年12月には**特許分野特化AI言語モデル**を共同開発した。2025年8月時点では、文単位の意味類似性を使うAI特許検索と、生成AIによる特許文献の核心技術要約アルゴリズムの研究を進め、特許・商標・意匠の検索、分類、翻訳にもディープラーニングを段階導入していた。¹¹

2026年1月15日には、半導体製造工程審査課の審査官向け勉強会で「**生成AI内部LLMの紹介および審査活用法**」がテーマになっている。このため8月27日のリリースに出てくる「内部AI」は単なる構想ではなく、少なくとも2026年初頭には審査部門で内部LLMを利用するための教育が行われていたことが確認できる。¹²

大型基盤と小型職員アプリを並行させている

2026年5月には、知識財産処は「IPOP（IP One Portal）」と呼ぶAIベースの知財情報分析プラットフォームを**2026年から3年間**かけて構築すると発表した。内部向けには特許技術動向分析や技術流出実態調査などを支援し、外部向けには各所に分散した知財情報を利用目的別に再構成して提供する計画である。これは職員が数時間で作るバイブコーディングアプリとは異なる、本格的な情報基盤である。¹³

旧特許庁が2025年9月に公表した2026年度**予算案**でも、「AI基盤特許行政革新事業」を2025年の20億ウォンから36億ウォンへ拡大し、産業財産情報分析プラットフォームに98億ウォンを新規計上するとしていた。これはあくまで当時の予算案の数字だが、組織として大型AI基盤への投資と、小規模な現場開発を並行させる方向が既に示されていた。¹⁴

したがって現在の知識財産処には、大きく次の二つの開発系統があると整理できる。

一つは「**中央開発型**」で、特許検索・翻訳・分類・IPOPなど、精度・セキュリティ・基幹システム連携が必要な領域を専門開発するもの。もう一つが今回本格化した「**現場開発型**」で、審査官や政策担当者が生成AIを使って、要約、比較、資料分析、ダッシュボード、反復処理といった比較的小さな業務課題を自ら解決するものだ。この二層を組み合わせていることが、韓国方式のポイントである。¹⁵

決定的な前兆は前日の「Gov.AX Insight」

今回の8月27日の発表を理解するうえで、最も重要な資料の一つが**前日8月26日の知識財産処発表**である。

知識財産処は8月26日、「Gov.AX Insight」という政府各省庁AI政策分析プラットフォームを試験運用すると発表した。このシステムは、韓国政府の政策ブリーフィングに掲載されるAI関連プレスリリースを自動収集し、要約・分析し、政策テーマの流れ、月別推移、省庁別AX政策分布、主要語の関係ネットワークなどを可視化し、さらに四半期ごとのAI動向報告書まで生成するという。¹⁶

そして最も注目すべき記述が、これを知識財産処の**IP-AX推進団**が「**対話型（バイブ）コーディング方式で、別途予算投入なしに自主開発した**」という部分である。つまり、「バイブコーディングで本当に行政ツールが作れるのか」という実験を8月27日に始めたのではない。前日の時点で、政策分析用の実働アプリを自前開発した実績を対外公表している。²

さらに同じ発表で、過去3カ月間に作ったAIアシスタントをまとめた「IP-AXポートフォリオ」も公開した。そこには、海外の知財・AIニュースを収集・分析する「IP-AX Global News」と、知財関連法令を統合検索し、立法予告や国会提出法案について所管部署の割当て、検討意見案作成を支援する「IP-AX Law Monitor」が含まれる。 ²

これは、8月27日の公式発表にある「特許文献要約・比較」「請求項分析」「資料分析・整理」「反復業務自動化」という抽象的な説明を具体化する重要な証拠である。知識財産処では既に、

審査業務AIだけでなく、政策モニタリング、法令調査、立法対応、海外情報収集、報告書生成まで職員開発AIの対象が広がっている。 ¹⁷

このため今回の変化は、「特許審査をAI化する」という従来型のPatent Office DXから、**知識財産処という行政組織そのものの仕事の作り方をAIネイティブ化する「IP-AX」へ対象が広がった**と捉えるのが妥当である。知識財産処自身も8月26日の資料で「IP-AX」をIntellectual Property分野のAI Transformationと定義している。 ¹⁸

なお組織自体も変わったばかりである。2025年10月1日の政府組織法改正に伴い、旧「特許庁」は国務総理所属の「知識財産処」に昇格し、特許・商標等の審査だけでなく、**政府横断の知的財産政策を総括・調整するコントロールタワー**として再編された。したがって、今回のAI改革は単なる旧特許庁内部のIT改善ではなく、発足から1年に満たない新組織の業務モデルを作る意味も持つ。 ¹⁹

韓国政府全体では「公務員が自分で作る」が国策化している

知識財産処だけを追うと、この動きの規模を過小評価する。2026年の韓国政府は、行政安全部を中心に「公務員自身によるAI開発」をかなり明確な政策として進めている。 ²⁰

春から夏にかけて一気に制度化

流れを時系列で並べると、知識財産処の8月27日の位置付けがはっきりする。

時期	韓国政府の動き	意味
2026年4月	行政安全部と国家情報院が、公務員自身が生成AIで業務ツールを開発・実験する支援体制づくりに着手	セキュリティ 機関を含めた制度設計開始 ²¹
5月	「AI Champion」上級課程。225人応募、48人選抜、20日間のプロジェクト型教育	現場AIリーダーを育成 ²²
6月	全国の中央・地方公務員・公共機関職員を対象に、自然言語によるパイプコーディング・ハッカソン	非IT職まで開発参加を拡大 ²³
7月3日	「AI政府実験室」試行開始。AIコーディング環境＋公共GitLab	試作インフラと共有インフラを政府が提供 ²⁴
7月22日	予算検索、災害SMS地図、行政問い合わせ案内など、公務員開発プロジェクトを公開	実用品が出始める ²⁵
8月12日	405実験、公共GitLab登録者1,000人超、189件公開	「実験」から行政開発コミュニティへ拡大 ²⁶
8月25日	「AI民主政府」戦略を閣議報告	全政府レベルの正式政策へ ²⁷

時期	韓国政府の動き	意味
8月26日	知識財産処が自前パイプコーディングのGov.AX InsightとIP-AXポートフォリオを公表	個別省庁で実装 2
8月27日	知識財産処長・局長級が自前パイプコーディング	管理職を巻き込んで全庁展開 6

特に7月の「AI政府実験室」は今回の知識財産処モデルと驚くほど似ている。行政安全部は、従来の公共IT事業では予算確保、事前企画、構築、運用まで時間がかかり、現場の小さな反復作業を迅速に改善しにくかったとして、民間クラウド、AIコーディングツール、オープンデータ、OpenAPIを使って公務員が**即座にプロトタイプを作る場所**を用意した。 24

成果物についても、課題文書、ソースコード、プロンプト等を「公共開発成果物リポジトリ（公共GitLab）」へ集約し、他の省庁や地方政府が再利用できるようにする。優秀事例を定期的を選び、参加公務員を表彰する制度も設けている。これは知識財産処が8月27日に掲げた「**庁内アプリ市場＋開発コンテスト＋開発－共有－拡散**」とほぼ同型である。 28

したがって、**知識財産処が独自に思いついた施策というより、韓国政府の新しい行政開発モデルを知財行政向けに実装したもの**と見るのが最も整合的である。これは公開資料を総合した分析上の推論だが、時期、用語、開発→共有→表彰の制度設計が強く一致している。 29

既に「数人の先進職員」の話ではない

8月12日時点のAI政府実験室では、中央省庁の課長から地方自治体の主務官までが参加し、405プロジェクト中189件が公共GitLabで公開されていた。行政安全部は、報告書・会議録をAIで自動分類・要約して検索や報告書草案に使う知識管理、自然言語から行政報告書案を作る「On AI Work」、韓国語規範チェック、キーボード・マウス操作の反復自動化、AIメモ管理などを具体例として挙げている。 30

さらに8月25日の政府戦略は、**全公務員のAI教育受講を義務化し、自前AI開発・現場導入が可能な専門人材2万人を育成**するとしている。これは「全員をソフトウェアエンジニアにする」という意味ではなく、各組織に大量のAI citizen developer／現場AIリーダーを配置する政策と読むべきである。政府は同時に、AI活用コンテストを毎年開催する方針も示した。 27

また、政府共通の知能型業務管理システム「On AI」を2026年12月までに47中央省庁へ展開しつつ、現場が必要なサービスを自分で作る「AI政府実験室」を並行運用する方針である。つまり韓国は、**共通AI基盤を中央から配る方式と、現場がアプリを下から作る方式を意図的に併用している**。 27

韓国モデルの本質と、何が新しいのか

今回の一連の政策は、「生成AIを使えばコーディングが簡単になった」というだけでは説明できない。むしろ行政組織における**開発プロセスそのものの再設計**が重要である。

従来型ITとは別の「高速レーン」を作っている

行政安全部自身が、通常の公共情報化事業は予算確保から企画、構築、運用まで相当な時間がかかるため、日常的に発生する小さな手作業・確認業務をタイムリーに改善しづらいと問題設定している。そこでAI政府実験室では、現場担当者がまず小さな機能を作り、実験・検証する。この問題設定は知識財産処にもそのまま当てはまる。 8

概念的には、次のような流れになっていると整理できる。

現場の不便を発見

- 自然言語でAIに要求
- 数時間～短期間でHTML等の試作品を作る
- アプリストア／GitLabに登録
- 同僚が再利用・改善
- コンテスト・評価で有望案件を発掘
- セキュリティ・品質検証
- 必要なら正式な業務システムへ昇格

このうち最初から「共有」までは知識財産処資料と政府実験室資料に明記されており、正式サービスに昇格する段階について行政安全部は、検証済みの優秀プロジェクトに**セキュリティ・品質検証と業務網での運用を支援し、大規模化が必要なものは通常の情報化事業プロセスにつなげる**方針を示している。³¹

つまり、パイプコーディングで大型基幹システムまで素人に作らせようとしているわけではない。「**安く・速く試す段階**」を現場に開放し、**本格運用に入る段階で従来型ガバナンスへ接続する**のが、現在公表されている韓国モデルに近い。⁵

管理職自身に作らせる理由

知識財産処の施策が興味深いのは、AI専門チームではなく処長・局長がコード生成を経験することだ。これは技術教育というより、**承認する側の人間に、開発速度と限界を体験させるチェンジマネジメント**だと考えられる。

現場職員がAIで有用なアプリを作れるようになって、「勝手なシステムを使うな」「正式予算化まで待て」という管理文化が残れば、変化は止まる。逆に局長自身が1時間で簡単なアプリを作れば、「この程度の業務課題なら数カ月の外注を待たずに試してよい」という判断がしやすくなる。知識財産処長が「幹部から直接AIを理解・活用し、各部署の変化を導く」と明言しているのは、この組織変革上の狙いと整合する。⁶

「開発者」より「問題を知っている人」を重視

行政安全部のAIハッカソンも、技術型だけでなく「**企画・問題定義型**」の参加枠を設け、AI時代の競争力は単純なコーディング能力だけでなく、行政現場の問題を正しく定義する能力にもあると明記している。²³

これは今回の知識財産処と非常によく一致する。特許請求項分析で何が面倒か、審査官がどこで時間を使うか、法案が来たとき政策担当者がどの資料を調べるかは、外部のITベンダーより現場職員の方が詳しい。その人が直接プロトタイプを作れることで、「**要件定義をIT部門へ説明するコスト**」自体を減らそうとしていると解釈できる。³²

最大の論点はセキュリティ、品質、責任分界

この方式には大きな可能性がある一方、知財庁という性格上、一般行政以上に慎重に見るべき点がある。

「外部AI」と「内部AI」の使い分けが鍵

ユーザー提供の公式資料で最も注目すべき細部は、8月27日の実習が「**外部AI活用パイプコーディング**」と明記されていることである。一方、同じ資料・公式発表では、既に職員が利用している特許文献要約・比較、請求項分析等のアプリは「**内部AIと連携**」していると説明されている。turn0file0⁶

さらに2026年1月には審査官向けに「生成AI内部LLM」の利用研修が行われている。したがって公開情報からは、

外部AI・インターネット環境：コーディング、公開データを使った迅速な試作
内部AI・業務環境：内部データを扱う実業務

という分離を志向している可能性が高い。これは**推論**であり、知識財産処が正式なシステム構成として説明したものではない。¹²

特に特許行政では、公開済み公報と、出願公開前の情報・内部審査資料では機密性が全く異なる。公開資料からは、8月27日に使用した外部AIの事業者・モデル名、入力可能情報の範囲、プロンプト保存設定、学習利用の有無、ネットワーク分離、コードを内部アプリストアへ登録する前の審査手順は確認できなかった。したがって、「**職員が外部AIで未公開特許情報を自由に扱える**」と解釈するのは誤りであり、現時点ではそこまでの根拠はない。^{filecite0turn0file0}

韓国政府自身も「作ったら即本番」にはしていない

行政安全部は8月12日の発表で、公務員の直接開発について、セキュリティ、品質、成果物管理、業務利用手順を含む「**公務員直接開発業務指針**」を整備するとしている。実験室で有望だったプロジェクトについても、セキュリティ・品質検証を行ったうえで業務ネットワーク運用を支援し、対国民サービスや政府共通サービスに発展させる場合は通常の情報化事業へ接続するとしている。⁵

さらに8月25日の政府戦略では、「人間中心」「透明・信頼」「セキュリティ・安全」「プライバシー保護」を基本価値とする**公共AI倫理基準**と、導入効果、個人情報侵害可能性、責任所在などを確認する**公共AI影響評価**を導入する方針を示した。つまり韓国政府自身も、バيبコーディングの普及と同時にガバナンスを後追いではなく制度化しようとしている。²⁷

今後確認すべきポイント

現時点の公開資料だけでは、知識財産処の庁内アプリ市場について、**登録審査者、ソースコードレビュー基準、脆弱性検査、外部ライブラリのライセンス管理、データアクセス権、監査ログ、アプリのオーナー、異動後の保守責任、利用停止基準、モデル更新時の再検証、生成結果の法的責任**までは分らない。行政安全部の政府共通方針から、今後こうした品質・セキュリティゲートが整備される方向は確認できるが、知識財産処固有の実装は未公表である。³³

したがって、この政策を評価する際には「何件アプリを作ったか」より、今後は**何件が実業務に採用されたか、何時間削減したか、再利用部署数、廃止率、不具合率、セキュリティ審査所要時間**などを見る必要がある。8月27日時点の知識財産処発表には、これら成果KPIはまだ示されていない。⁶

日本・他国と比べたときに何が特徴的か

韓国だけが特許行政にAIを導入しているわけではない。むしろ、日本、米国とも審査支援AIの導入は進んでいる。違いは「**誰がアプリを作るのか**」にある。

日本の特許庁との違い

日本特許庁は「AI技術の活用に向けたアクション・プラン」を継続的に改定している。2025年度改定では、先行技術調査の高度化を導入フェーズへ移し、「生成AIの特許行政事務への適用」「生成AIの特許審査業務への適用」について2025年度に技術実証を行うとしている。すなわち、生成AIを無制限に現場投入するのではなく、ユースケースごとにPoC・導入フェーズを管理する方式が中心である。³⁴

2026年4月には、日本特許庁も生成AIを活用した自動生成・自動付与型検索インデックス「GAIA-Index」を一部テーマでJ-PlatPatから検索可能にした。従来、人手で改正・付与してきた分類に対してAIを使い、付与のばらつきを減らし、技術動向変化への対応を速めることを狙っている。これは技術的には先進的だが、基本的には**特許庁が一つの審査基盤機能を中央で開発・実証・提供するモデル**である。 35

調査した日本特許庁の公開資料の範囲では、韓国のように「一般の審査官・政策担当者が生成AIで個別アプリを作成→庁内アプリストアへ登録→コンテスト→横展開」という制度を全庁的に打ち出した事例は確認できなかった。この点で韓国は、**審査AIそのものより、AIによる“市民開発／職員開発”を制度化していることが特徴的**である。これは「日本には全く類似施策がない」という断定ではなく、今回確認した特許庁公式公開資料との比較である。 36

USPTOも基本は「AIが審査官を支援」

米国USPTOでは、2022年9月からutility patent examinerがAI支援型のSimilarity Search（SimSearch）を利用しており、出願本文からAI検索クエリを作り、類似する先行文献をランキング表示する。USPTOは明確に「既存検索ツールを置き換えるのではなく補完する」ものと位置付け、採用するかどうかの裁量を審査官に残している。 37

2025年には意匠審査官向けにAI画像検索「DesignVision」も導入し、80超の各国レジスターを画像類似性で検索可能にした。これも審査官支援システムとして中央提供するモデルである。 38

したがって、韓国の特徴を一言で表せば、

「AIを審査官に与える」だけでなく、「AIを使って審査官自身がソフトウェアを作れる環境を与える」方向へ進んでいる。

という違いである。 39

日本側から見た最も重要な示唆

日本がこの韓国事例から参考にできるのは、必ずしも「バイブコーディング研修をやる」ことではない。より重要なのは、**正式システム開発と現場プロトタイピングを分離し、その間に安全な昇格経路を作ること**だと考える。

韓国政府の現在の構造を整理すると、

共通AI基盤

On AI、内部LLM、専門的な審査AI、IPOPなど

+

現場開発環境

AI政府実験室、外部AIコーディング、HTMLアプリ等

+

共有基盤

公共GitLab、知識財産処内アプリストア

+

人材・インセンティブ

AI Champion、ハッカソン、コンテスト、表彰、幹部自身のハンズオン

+

本番化ゲート

セキュリティ・品質検証、業務網運用、必要に応じ正式情報化事業化

という形が見えてきている。 40

このうち、今回の知識財産処のニュースで最も注目すべきなのは「**パイプコーディング**」という流行語**そのものではない**。本質は、AIによって現場職員とソフトウェア開発者の境界が薄くなることを前提に、**開発権限、共有場所、評価制度、管理職文化を同時に変えようとしている点**にある。

2026年8月30日時点ではまだ初期段階であり、知識財産処の庁内アプリストアの実利用件数、開発コンテストの開催要領、業務時間削減効果、セキュリティ審査方法などは公開情報から確認できない。一方で、前日に実働するGov.AX Insightと複数のIP-AXエージェントを公開していること、政府全体のAI政府実験室では既に405件の開発実験と189件の公開共有に達していることから、**これはPRだけの「AI研修」ではなく、韓国政府のソフトウェア開発モデルを変える政策が実装段階に入った事例**と評価するのが妥当である。 41

1 6 31 39 지식재산처 > 소식알림 > 보도자료 > 보도자료(상세)

[https://kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?](https://kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=21013&sysCd=SCD02&utm_source=chatgpt.com)

[aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=21013&sysCd=SCD02&utm_source=chatgpt.com](https://kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=21013&sysCd=SCD02&utm_source=chatgpt.com)

2 16 17 18 32 41 지식재산처 > 소식알림 > 보도자료 > 보도자료(상세)

<https://kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=21012&sysCd=SCD02>

3 4 5 26 30 33 과장도 주무관도 ‘AI 개발자’로 ‘AI 정부 실험실’ 한 달 만에 405개 실험 | 행정안전부>

[https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DVvPU32ukszWIKCy8yUyR6achf_KGRrKr6hlaHSQY.node10?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=128670)

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DVvPU32ukszWIKCy8yUyR6achf_KGRrKr6hlaHSQY.node10?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DVvPU32ukszWIKCy8yUyR6achf_KGRrKr6hlaHSQY.node10?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=128670)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=128670](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DVvPU32ukszWIKCy8yUyR6achf_KGRrKr6hlaHSQY.node10?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=128670)

7 ‘말로 설명하면 업무 앱 완성’... 지식재산처, ‘바이브 코딩’으로 AI 업무혁신

https://www.kukinews.com/article/view/kuk202608270242?utm_source=chatgpt.com

8 24 28 29 공무원이 직접 만드는 AI 행정혁신 ‘AI 정부 실험실’에서 시작된다 | 행정안전부>

[https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D_jeEH0edlTgy9KUfqFO1RAoCu_DffXqjP5357gfi.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=127460)

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D_jeEH0edlTgy9KUfqFO1RAoCu_DffXqjP5357gfi.node30?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D_jeEH0edlTgy9KUfqFO1RAoCu_DffXqjP5357gfi.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=127460)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=127460](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D_jeEH0edlTgy9KUfqFO1RAoCu_DffXqjP5357gfi.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&ntId=127460)

9 10 지식재산처 > 소식알림 > 알림사항(상세)

<https://kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200049&ntatcSeq=19668>

11 15 지식재산처 > 소식알림 > 보도자료 > 보도자료(상세)

[https://www.kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?](https://www.kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&keyword=&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20597&pageIndex=&searchCondition=&sysCd=SCD02)

[aprchId=BUT0000029&keyword=&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20597&pageIndex=&searchCondition=&sysCd=SCD02](https://www.kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&keyword=&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20597&pageIndex=&searchCondition=&sysCd=SCD02)

12 차세대반도체연구회 - 게시판 상세 | 지식재산처 연구회

<https://www.kipo.go.kr/club/front/menu/bbs/view.do?clubId=semiconductor&curPage=1&menuId=12&messageId=30225>

13 지식재산처 > 소식알림 > 보도자료 > 보도자료(상세)

<https://www.kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20910>

14 지식재산처 > 소식알림 > 지식재산처뉴스 > 카드뉴스(상세)

<https://www.kipo.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000068&menuCd=SCD0201222&ntatcSeq=213&sysCd=SCD02>

19 지식재산처 > 소식알림 > 보도자료 > 보도자료(상세)

<https://www.moip.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?>

[aprchId=BUT0000029&keyword=&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20637&pageIndex=&searchCondition=&sysCd=SCD02&utm_source=chatgpt.com](https://www.moip.go.kr/ko/kpoBultnDetail.do?aprchId=BUT0000029&keyword=&menuCd=SCD0200618&ntatcSeq=20637&pageIndex=&searchCondition=&sysCd=SCD02&utm_source=chatgpt.com)

20 21 코딩 몰라도 AI 도구 만드는 공무원, 정부가 뒷받침한다 | 행정안전부>

<https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/>

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D7fCVYm0sORQHlavOEg6MyH-1TK0R5_F8f0FQbuQ.node30?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D7fCVYm0sORQHlavOEg6MyH-1TK0R5_F8f0FQbuQ.node30?)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=125232](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3D7fCVYm0sORQHlavOEg6MyH-1TK0R5_F8f0FQbuQ.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=125232)

22 프로그램 직접 만드는 AI 리더 공무원 육성 | 행정안전부>

<https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/>

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DhEr1nh2KLAlwNnUH_X7a0PCLJfsblNMbXn6UsCcg.node30?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DhEr1nh2KLAlwNnUH_X7a0PCLJfsblNMbXn6UsCcg.node30?)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=125796](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DhEr1nh2KLAlwNnUH_X7a0PCLJfsblNMbXn6UsCcg.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=125796)

23 "코딩 몰라도 도전" 공무원 'AI 코딩 서바이벌' 열린다 | 행정안전부>

<https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dzm9-jLJfWunkGYDzyFyWjMmcNTWEJHmHouWtS9tL.node50?>

[jLJfWunkGYDzyFyWjMmcNTWEJHmHouWtS9tL.node50?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dzm9-jLJfWunkGYDzyFyWjMmcNTWEJHmHouWtS9tL.node50?jLJfWunkGYDzyFyWjMmcNTWEJHmHouWtS9tL.node50?)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=126263&utm_source=chatgpt.com](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dzm9-jLJfWunkGYDzyFyWjMmcNTWEJHmHouWtS9tL.node50?bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=126263&utm_source=chatgpt.com)

25 공무원이 직접 만든 AI 과제, 'AI 정부 실험실'에서 속속 등장 | 행정안전부>

<https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/>

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DJnSWvHlkUHrq6n_ERuqMu4qvllCmOUYoGYJK9E.node30?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DJnSWvHlkUHrq6n_ERuqMu4qvllCmOUYoGYJK9E.node30?)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=128081](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3DJnSWvHlkUHrq6n_ERuqMu4qvllCmOUYoGYJK9E.node30?bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=128081)

27 40 국민이 주인 되는 정부, AI로 만든다 「AI 민주정부」 실현 본격 추진 | 행정안전부>

<https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/>

[commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dm0uG4S61bW976i93Z6FYURNuJMW3VQ1fXMZxlmAd.node20?](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dm0uG4S61bW976i93Z6FYURNuJMW3VQ1fXMZxlmAd.node20?)

[bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=128980](https://www.mois.go.kr/frt/bbs/type010/commonSelectBoardArticle.do%3Bjsessionid%3Dm0uG4S61bW976i93Z6FYURNuJMW3VQ1fXMZxlmAd.node20?bbsId=BBSMSTR_000000000008&nttId=128980)

34 36 特許庁における人工知能（AI）技術の活用に向けたアクション・プランの令和7年度改定版について | 経済産業省 特許庁

https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-fy2025.html?utm_source=chatgpt.com

35 Automatically created and assigned classification "GAIA-Index" | Japan Patent Office

https://www.jpo.go.jp/e/system/patent/gaiyo/seido-bunrui/gaia_index.html?utm_source=chatgpt.com

37 Another USPTO AI-assisted examination tool ready for prime time | USPTO

<https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/another-uspto-ai-assisted-examination-tool-ready-prime-time?>

[utm_source=chatgpt.com](https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/another-uspto-ai-assisted-examination-tool-ready-prime-time?utm_source=chatgpt.com)

38 USPTO launches new design patent examination AI tool | USPTO

<https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-launches-new-design-patent-examination-ai-tool?>

[utm_source=chatgpt.com](https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-launches-new-design-patent-examination-ai-tool?utm_source=chatgpt.com)